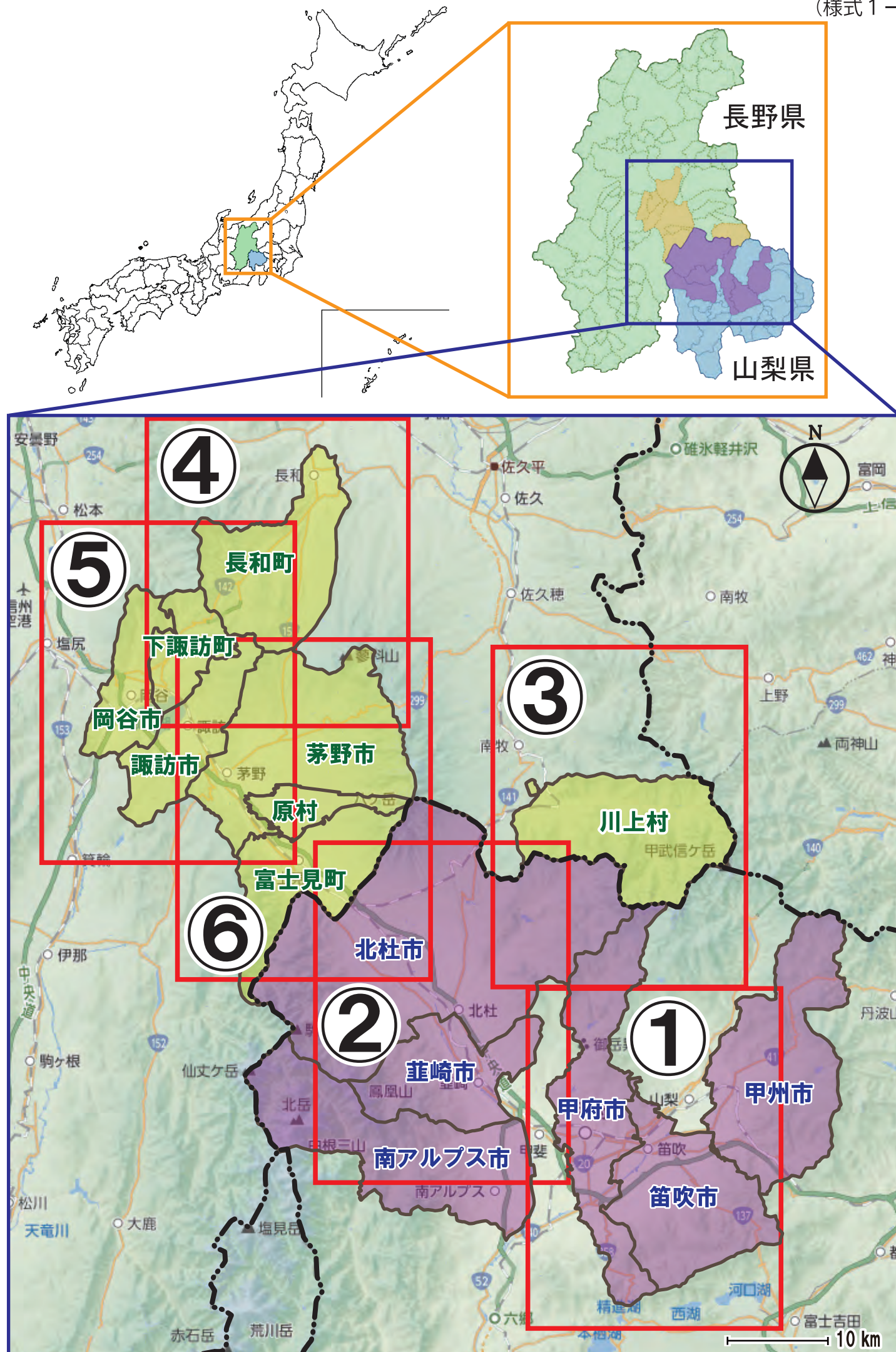
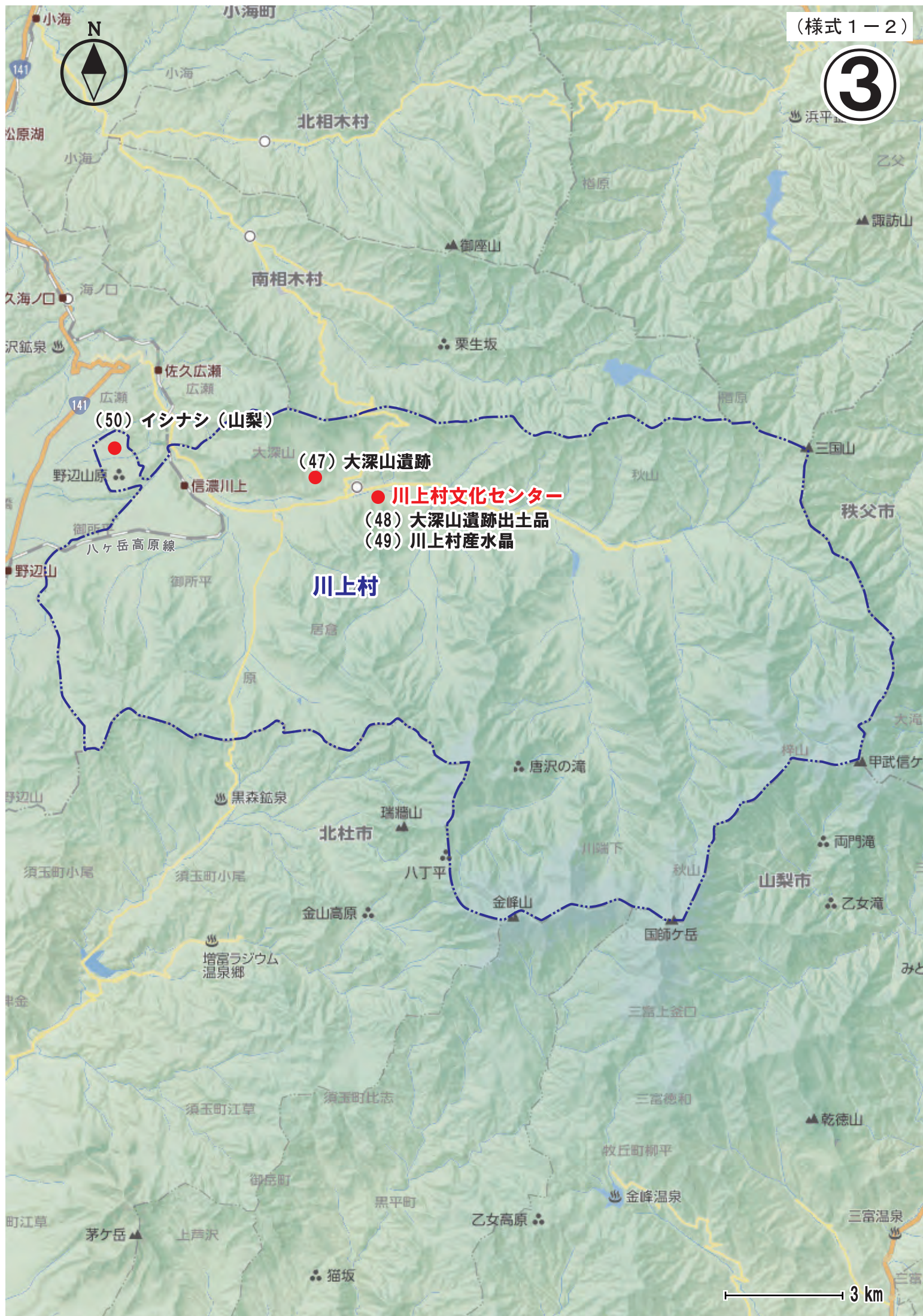


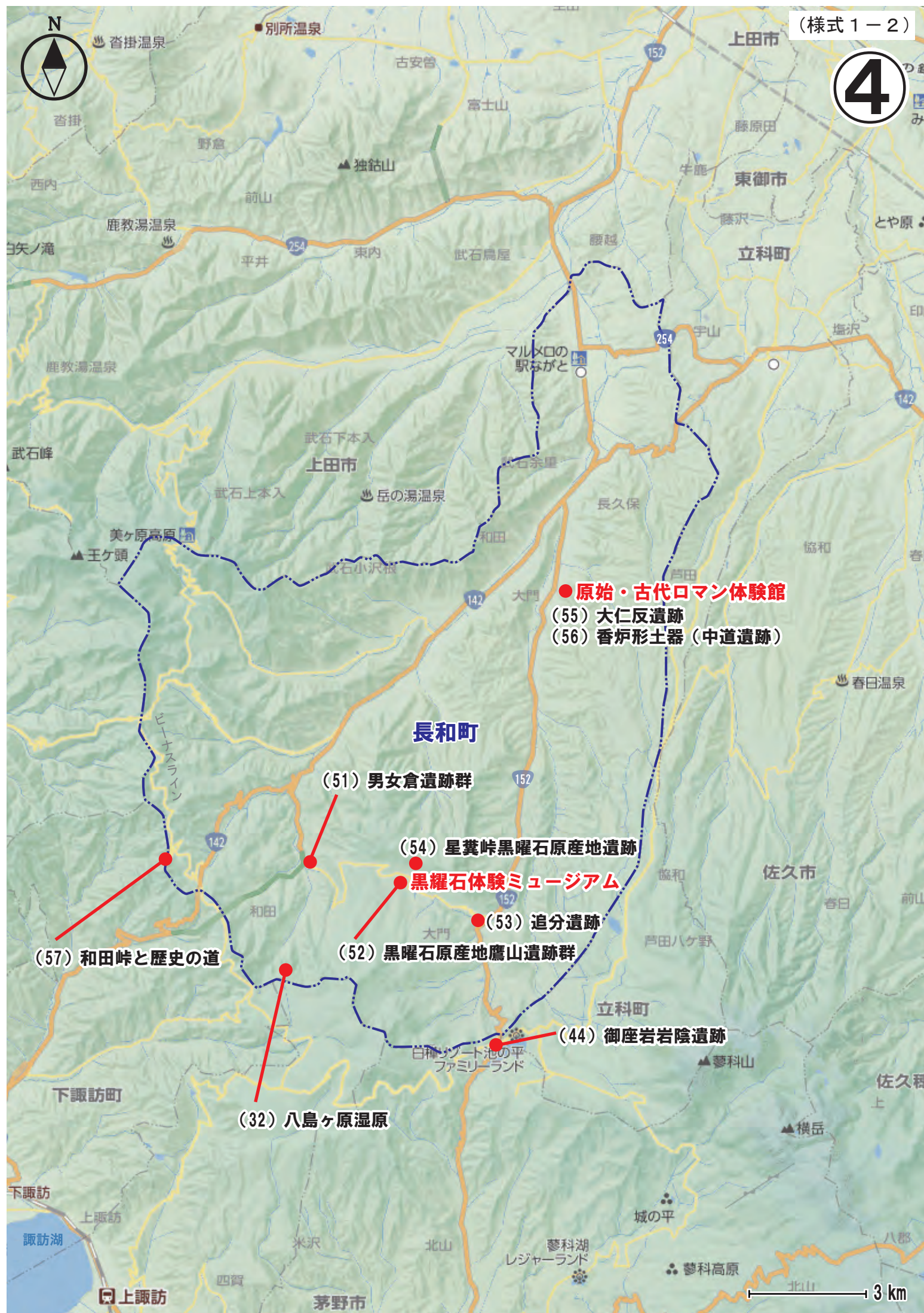
① 申請者	◎長野県（茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、長和町、川上村） 山梨県（甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
星降る中部高地の縄文世界 —数千年を さかのぼる黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山がある。鉱山の森に足を踏み入れると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ かがやく黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきた。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされた。 麓のムラで作られたヒトや森に生きる動物を描いた土器やヴィーナス土偶を見ると、縄文人の高い芸術性に驚かされ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができる。			



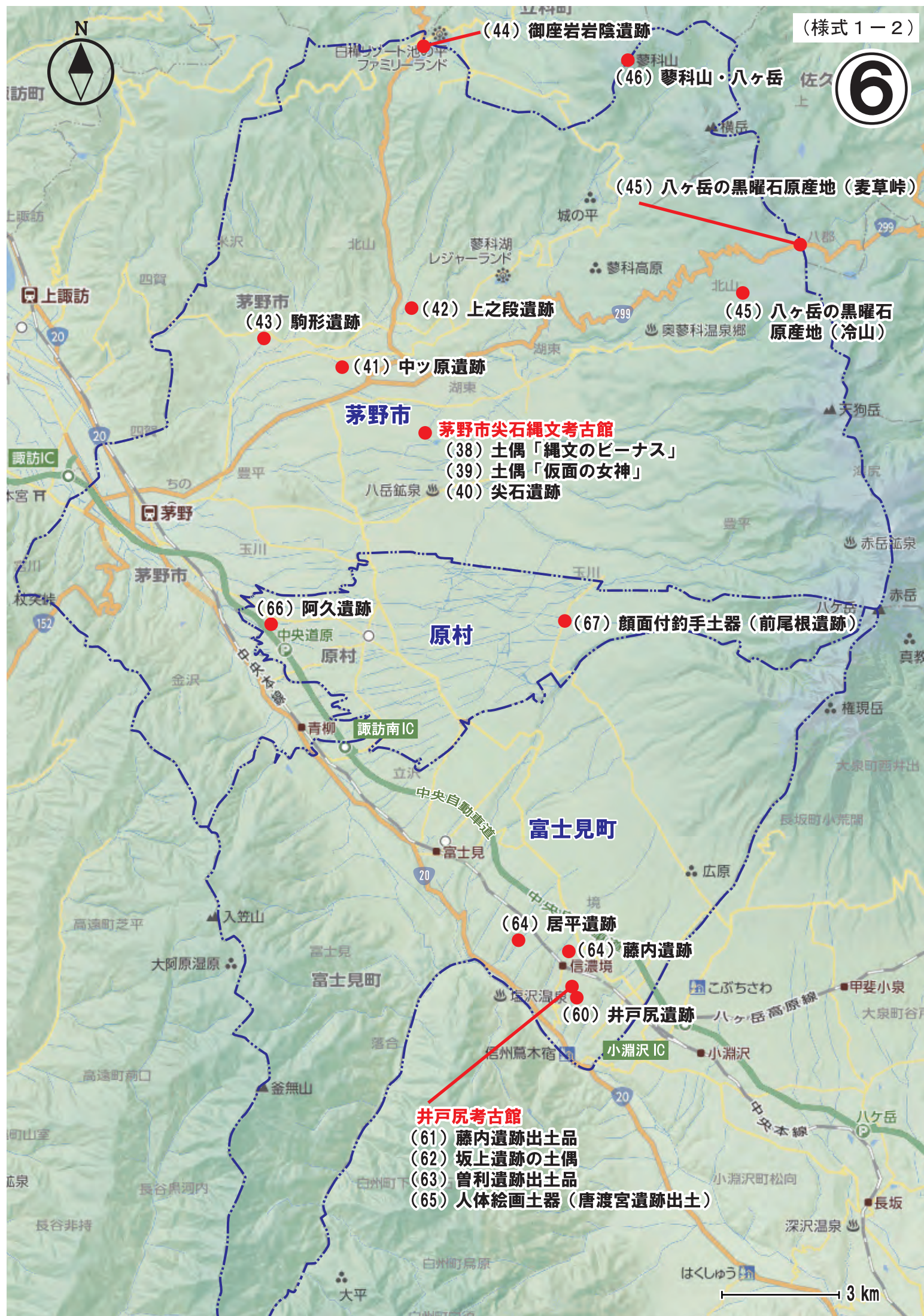












ストーリー

黒く^{かがや}耀く石の魅力

精緻で多様な形の道具を作り出す日本列島のものづくりの文化は、約3万数千年前に大陸から渡って来た現生人類の石器づくりにそのルーツがある。

そうした石器の材料を代表するのが、火山が生み出した天然ガラスである黒曜石である。なかでも、信州産の黒曜石は良質なものが多く、割れ口が鋭く加工しやすいため、矢じりやナイフをはじめとする多彩な石器づくりの材料として当時の人々に好まれ、広く利用された。今日のような運送手段がなかった昔、数万年にわたって産地限定の黒曜石が大量に、しかも広域に流通していた事実は、この資源が日本最古のブランドとして人気が高かったことを物語っている。



星糞峠産の黒曜石原石

黒曜石縄文鉾山から全国へ

中部高地の深い森の頂には、縄文人が数千年にわたって黒曜石を掘り続けた国内唯一の黒曜石鉾山がある。霧ヶ峰高原の一面にある^{ほしくとうげ}星糞峠の黒曜石鉾山を訪れると、数千年の時を経た今でも縄文人が黒曜石を掘り出していた痕跡を、環状にめぐる土手の中央部にクレーター状の窪みとして目にすることができる。不思議なこの地形は、^{さいくつこう}採掘坑の周囲に掘り捨てた土砂が積み重ねられてできたものである。縄文人が掘り出した土砂の厚みは優に5mを超え、地下では3,500年前に構築された土砂崩れを防ぐための木柵がそのままに発見された。より良い石材を獲得しようとした縄文人の苦労と熱い思いが伝わってくる。

国内でも希少な黒曜石鉾山は、星糞峠、星ヶ塔など星の名がつく高原地帯で発見されている。標高1500mを超えるこれらの場所には、キラキラ光る黒曜石のかけらがたくさん散らばっている。我々の祖先は夜空に瞬く無数の星を見上げ、黒曜石のかけらを大地に降り積もった星のかけらと信じてこうした地名が生まれた。峠から見上げる満天の夜空の耀きは、数千年を経た今も変わらぬ耀きを足元に投じている。

鉾山から掘り出された耀く黒曜石は、山裾のムラからムラへと持ち運ばれ、ムラを結ぶ道は「黒曜石の道」となった。八ヶ岳山麓には、大量の黒曜石が集められた大きなムラが点々と存在する。そこは良質な信州産の黒曜石を求めて遠くの地域から訪れる縄文人との出会いの場となり、東西文化の交流ネットワークが結ばれたのである。

恵み多き八ヶ岳山麓の縄文ムラへ

高原地帯から山麓に広がる台地へと、中部高地の縄文人は標高差1,000mに及ぶ多様な環境を活動の舞台としていた。今からおおよそ5,000年前、日本で最大のムラ数を誇るに至った縄文時代中期の山麓文化は、その資源環境を活かす術によって開花したものである。

縄文鉾山から落葉広葉樹の深い森を通り麓のムラをめざす。ムラに近づくとも明るい雑木林に変化する。

縄文時代のムラの姿を守り伝える長野県の^{とがり}尖

^{いし}石遺跡では、竪穴住居が立ち並び、当時の風景が私たちに迎えてくれる。ムラの周囲には、食糧や建築材、そして燃料としても最適であったクリなどが育てられていた。実を付けない木は伐採され、食を支えたドングリやクルミなどの大きな実をつける木が選ばれていった。広大な森林の懷には、家族が集い、遠方からの旅人を迎えたムラが数多く営まれていたのである。農耕民族と言われる日本人がつくりだした田園風景のルーツは、米づくりを始めた弥生時代にその風景を求めることもできる。し



尖石遺跡の縄文ムラ

かし、それよりもはるか数千年～数万年前には違った風景が広がっていた。我々の記憶の奥にしまい込んでしまった真の日本のルーツとなる森や山に囲まれた風景である。中部高地の一带では、今に残る豊かな自然と遺跡の姿から懐かしいその風景を臨むことができる。集落を包む森を抜け、山麓を刻む清らかな水を集めた大きな川のほとりに立つと、森の背後には空に向かって立ち並ぶ八ヶ岳や南アルプスなど雄大な山並みが見え、四季折々の自然の営みがパノラマのように展開する。

標高の高い山麓地帯の春は雪解けとともに里から山へと訪れ、ワラビやコゴミなどの新鮮な山菜が一斉に顔をだす。そして、深い緑に包まれた山並みが里へと吹き抜ける風と共に鮮やかな秋の紅葉へと姿を変える頃、山ブドウやドングリの結実とキノコの便りを目にするができる。縄文人たちも、この景色の移ろいの中に恵みの到来と地の利を知り、再び訪れる厳しくも静かな冬を乗り切る貯えの知恵を培ったのである。今に伝わる多種多様な食材とその文化は、数千年の昔より雄大な自然と向き合う伝統から生み出された。

中部高地の玄関口となる山梨県の梅之木遺跡のムラからは、幾重にも連なる山並みを間じかに見渡すことができる。関東の平野から、遠き山並みを目指して足を運んだ縄文人たちも、この地に立ち、奥深い山麓の恵みに胸を高鳴らせたに違いない。

森に集う縄文人に会いに行こう

土器に水の流れ、森に育つ草木、そしてその世界に生きていた人や動物の姿を立体的に描く、国内外でも類例のない土器文化が発達した。それは縄文芸術の極みでもある。

器の中を覗き込むように母の顔をつけた土器は、中身が煮えるのを楽しみに見守っていたのだろうか。家族が囲む土器鍋には、母から生まれようとする子どもの顔や歌を歌い踊るようなヒトの姿も描かれている。森の芸術家縄文人が残した作品は、まるで当時の生活の一コマをそのままに伝えているようだ。土器に映し出された家族の顔や様々な表情を持つ土偶は、数千年の時空を超えて今を見つめている。



縄文芸術家たちの作品

縄文人の心に触れる

黒曜石鉱山を開発し、交易ルートを拓き、クリ林を育てるなどの技術を手にした縄文人だったが、どうしようもないことが起きた時、あるいは日頃の感謝をこめて、カミに“祈る”ことが重要だった。中でも、子どもの誕生と健やかな成長への願いは、私たちがヴィーナスや女神と呼んでいる妊娠女性の姿をした土偶への祈りに託された。長野県中^{なか}ツ^つ原^{ばら}遺跡の現地に立つと、役割を終えてムラの中央に埋納された「仮面の女神」を、発掘された瞬間の復元模型でみることができる。また、博物館では、個性的な表情のヴィーナスたちに出会うことができる。

天体の周期に生命の誕生や再生を祈るマツリの事例もある。冬至など特別な日に太陽が山頂に沈む場所に位置する北杜市^{きんせい}金生^{せい}ムラの遺跡では、山頂を臨む位置に祭壇を作るマツリが繰り返し行われていた。マツリの姿は、自然の営みとともに生きる狩猟採集民であった縄文人の純粋な心を伝えている。

日本列島源流文化発見の旅へ

中部高地では、太古から変わらぬ雄大な景観の中、縄文人が黒曜石を運んだ道をたどり山麓の縄文ムラの跡を訪ね、命の躍動を表現した母なるヴィーナスや森に潜む動物をモチーフとする造形に優れた原始芸術に出会い、今につながる縄文人の世界に思いを馳せることができる。胸の奥底にしまい忘れた遠い記憶、自然とともにあった日本文化の源流にタイムスリップしてみよう。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	深鉢形土器 (殿林遺跡出土) とのぼやし	国重文 (考古)	縄文芸術 中部高地を代表する大型の土器。日本固有の原始美術品として海外でも評価が高い。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
②	一の沢遺跡出土品 いちのさわ	国重文 (考古)	縄文芸術 端正な顔の土偶の「いっちゃん」。出土した深鉢形土器は口縁部に大きな把手を付け、胴部がくびれ、底部はそろばん玉形で、縄文時代中期の特徴を示す。また土器の表面の風化が少なく造形美に加えてお肌美人の土器が多い。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
③	酒呑場遺跡出土品 さけのみば	国重文 (考古)	縄文芸術 八ヶ岳南麓の中部高地を代表する大規模な集落跡の出土品一括。その学術的価値は高い。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
④	海道前 C 遺跡土坑出土品 かいどうまえしー	県指定	縄文人に会う 人面把手が付けられた出産を表す土器。①の出産土器は胴部から赤ちゃんの顔が出ているがこの土器は出産直前の様子を示すものと考えられる。男性のシンボルである石棒 せきぼう とともに埋納されていた。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
⑤	安道寺遺跡出土品 あんどうじ	県指定	縄文芸術 大型の水煙文 すいえんもん 土器、四単位の大型把手が付いたすぐれた造形美をもち、特別なマツリが行われた土器がある。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
⑥	原町農業高校前遺跡出土品 はらまちのうぎようこうこうまえ	未指定	縄文人に会う のっぺらぼうのように目鼻口のない人面付土器が出土している。住居跡が 100 軒以上確認されている大集落遺跡からの出土品。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市

⑦	かぶつばら 甲ッ原 遺跡出土品	未指定	縄文人の想い イノシシ形大型把手が付いた土器、東北地方産のコハク玉も出土している。縄文時代前期から中期の大集落遺跡の出土品。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市 北杜市
⑧	てんじん 天神 遺跡出土品	未指定	黒曜石大型原石、大型ヒスイのペンダントなど他地域との交流を示す出土品。縄文時代前期～中期の大集落[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
⑨	かつらの 桂野 遺跡出土大型深鉢 土器	県指定	縄文芸術 他に類例がない渦巻文だけで構成される土器。桂野遺跡からは、立つ土偶「みさかカップ」も出土。[山梨県立博物館]	山梨県 笛吹市
⑩	しゃかどう 釈迦堂 遺跡出土品	国重文（考古）	縄文人に会おう 復元可能な土器は約 1200 点。土偶は、1116 点のほとんどが故意に壊されている。土偶の質・量において他遺跡を圧倒する。高さ約 70 c m の大型水煙文土器もある。[釈迦堂遺跡博物館]	山梨県 甲州市 笛吹市
⑪	いもじや 鋳物師屋 遺跡出土品	国重文（考古）	縄文人の心 土偶に似た女神像で飾られた土器。また大型土偶「子宝女神ラヴィ」など優品が多い。[南アルプス市ふるさと文化伝承館]	山梨県 南アルプス市
⑫	おきたぐち 長田口 遺跡	未指定	黒曜石の大型の原石 3 点が出土。大型の黒曜石は交換財としての価値があり、黒曜石原産地域との密接な交易があったと推定されている。[南アルプス市文化伝承館]	山梨県 南アルプス市
⑬	いしのつぼ 石之坪 遺跡出土品	未指定	縄文人の心 土器のまわりに、不思議な動物文が巡っている特異な土器。[韮崎市民俗資料館]	山梨県 韮崎市
⑭	めおとし 女夫石 遺跡出土品	未指定	縄文人の心・想い 巨石を中心に土偶が 100 点以上出土、その巨石からは、春分・秋分の日、南アルプス鳳凰三山の地蔵ヶ岳のオベリスクに日が沈む。[韮崎市民俗資料館]	山梨県 韮崎市

⑮	うめのき 梅之木 遺跡	国史跡	縄文ムラの景観 水場へ至る道跡が確認され集落の構造が解明できる貴重な縄文時代中期の環状集落遺跡。	山梨県 北杜市
⑯	きんせい 金生 遺跡	国史跡	縄文ムラの景観 縄文人の想い 冬至に南アルプス甲斐駒ヶ岳に夕日が沈む光景が見られる。縄文時代中期・後期・晩期の祭祀遺跡。	山梨県 北杜市
⑰	つがねごしよまえ 津金 御所前 遺跡出土品	県指定	縄文人に出会う 口縁部に顔面の把手がつき、胴部に人面が表現され出産の様子を表した土器。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
⑱	すわばら 諏訪 原 遺跡出土品	未指定	縄文美人に出会う 女神像が付いた土器。鋳物師屋遺跡出土の「女神像で飾られた土器」と類似する。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
⑲	いしはらだきた 石原 田北 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 人体文が付いた大型の双円文 装飾土器。高さ約 1 m の中部高地最大級の土器。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
⑳	きんせい 金生 遺跡出土品	未指定	黒曜石原石、大型中空土偶。集落は縄文時代中期に始まり後期・晩期に発展する。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
㉑	てらどこ 寺所 第 2 遺跡	未指定	黒曜石原石、サンショウオとも言われる不思議な動物文で飾られた土器。住居跡が 100 軒以上確認されている大集落遺跡の出土品。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
㉒	ちくう 竹宇 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 子供の顔は円形で表現されているが、全体の文様構成から出産土器と考えられている。[北杜市考古資料館]	山梨県 北杜市
㉓	かいど 海戸 遺跡出土品	国重文(考古)	縄文美人に会う。つり上がった切れ長の目や上向きの鼻、小さくあいた丸い口、深くくびれた胴などの美しさは、5000 年の時を経て、さらに私たちを魅了してくれる。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市

②④	えのきがいと 榎垣外 遺跡出土品	市有形文化財	縄文芸術 美しい女性と対峙し、男性の象徴を意味する蛇を荒々しく描いた 縄文人の表現力 には圧倒される。 [市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑤	め きり 目 切 遺跡出土品	市有形文化財	壺を持つ妊婦土偶はとてもおしゃれな縄文女性が可愛らしく表現されている。クールジャパンの造形の代表のひとつ。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑥	かじょうじ 花上寺 遺跡出土 土偶	市有形文化財	高さ 4cm の超小型土偶であるが、小さいながらも目、口、鼻、手指などの細部もしっかり表現されていて、とても愛おしく感じられ、 縄文芸術に触れる ことができる。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑦	しみず だ 清水 田 遺跡 こくよう せきぎげんせき 黒曜石 原石	未指定	麓のムラの大きな黒曜石 重さ 6.5kg もある巨大な黒曜石原石。宝の山から得た黒曜石を打ち欠き、石器をつくっていたムラの姿が想像できる。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑧	なしくぼ 梨 久保 遺跡と出土品	国史跡 市有形文化財	黒曜石・コハク・ヒスイの分配にかかわったムラ 黒曜石原産地に最も近いムラ。良質な黒曜石を求めて、多くの縄文人が集まり、東西文化交流の拠点の地となった。また、コハク・ヒスイ・黒曜石といったブランド品が集散したことを示す。日本海と太平洋を繋ぐ交流地域であったことを現代人に語りかけてくれる。	長野県 岡谷市
②⑨	広畑遺跡と出土土偶	市史跡 市有形文化財	山の幸を享受した縄文ムラの景観。 出土土偶は古来のお産の姿である座産のような表現がされている。	長野県 岡谷市
③⑩	そ ね 曽根 遺跡	県重要遺跡・ 市史跡	黒曜石の匠 諏訪湖底に眠る縄文時代初頭水中遺跡。黒曜石製矢じりを作った生産遺跡。矢じりづくりには優美かつ卓越した加工技術が垣間見られる。	長野県 諏訪市

③①	ジャコッパラ遺跡群	未指定	縄文ムラの周囲に広がる霧ヶ峰高原の狩猟場。落葉を陥し穴の蓋に利用した状態が発掘された。	長野県 諏訪市
③②	八島ヶ原湿原・車山湿原・踊場湿原	国天然	霧ヶ峰高原の湿原。湿原は動物たちにとっても貴重な水場であった。縄文人にとっても格好の狩場となった。	長野県 諏訪市・下諏訪町
③③	ちかとうしや じゅうにのき 千鹿頭社・十二ノ后 遺跡	未指定	山麓湖盆を望む縄文前期の集落遺跡。御柱の起源かとも考察された木柱を立てた跡も見つかる。	長野県 諏訪市
③④	諏訪地域考古資料 (藤森栄一蒐集品)	国登録有形文化財 (美術工芸品)	諏訪地域だけでなく国内の縄文文化を語る上でも各所で取り上げられてきた著名な資料群。曾根遺跡出土品のほか、新道遺跡土器セットは縄文農耕論の基礎資料として有名。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑤	あなば 穴場 遺跡 18 号住居址 出土品	市有形文化財	縄文芸術 繁栄や豊穰を祈る縄文祭祀の姿を示す遺物の出土例。そのうち蛇体文付釣手土器は中部高地縄文土器造形の典型の一つ。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑥	こうじんやま 荒神山 遺跡出土品	未指定	大きく芸術的な縄文土器 市内発見の縄文中期土器群の代表格。縄文人が栽培したとみられる種子 (エゴマ?) が炭化物として発見され、縄文時代の植物栽培を肯定するきっかけとなった。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑦	おお 大 ダッシュヨ 遺跡出土 特殊型土器	市有形文化財	縄文人の心 繁栄や豊穰を祈る縄文祭祀に関わったとみられる特殊な形状 (革袋状?) をした土器。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑧	土偶「縄文のビーナス」	国宝 (考古)	縄文人の心 約 1000 年間続く八ヶ岳山麓の縄文時代中期の繁栄の始まりを予感させるボリューム感あふれる土偶。[茅野市尖石縄文考古館]	長野県 茅野市

③⑨	土偶「仮面の女神」	国宝（考古）	縄文人の心 精緻な文様構成は、世界中から造形的な高い評価がある。[茅野市尖石縄文考古館]	長野県茅野市
④⑩	とがりいし 尖石 遺跡	特別史跡	縄文ムラの景観 ハヶ岳山麓を代表する縄文時代中期の集落として、約 1000 年間にわたり繁栄を続けた拠点集落。広大な面積の史跡公園となっており、復元された複数の竪穴住居のまわりには縄文の里山が広がる。まさに縄文の原風景を満喫できるスポットである。	長野県茅野市
④⑪	なかっぱら 中ッ原 遺跡	未指定	縄文ムラの景観 国宝土偶「仮面の女神」が出土した遺跡。女神が埋まっていた様子を模型で再現、また御柱のように建てた柱が復元された公園となっている。	長野県茅野市
④⑫	うえのだん 上之段 遺跡	史跡	黒曜石のムラ 黒曜石原産地である霧ヶ峰の星ヶ塔、星糞峠に最も近い集落で、諏訪地方と小県を結ぶ人と文化の交流の拠点。	長野県茅野市
④⑬	こまがた 駒形 遺跡	史跡	背後の山を上り詰めたところに霧ヶ峰黒曜石原産地があり、 黒曜石の集積と搬出の拠点 。近くには茅野市最大の水源である大清水がある。	長野県茅野市
④⑭	ございわ 御座岩 岩陰遺跡	県史跡	黒曜石のミチ 諏訪地方と小県を結ぶ峠の頂点にあり、かつて池之平湿原であった地は狩猟の場として、また、人と文化の交流の中継点となった。	長野県茅野市
④⑮	八ヶ岳の黒曜石原産地	未指定	黒曜石の露頭 冷山 ^{つめたやま} と麦草峠はともに黒曜石の原産地、特に冷山は大型バスほどの黒曜石の露頭がみられる。	長野県茅野市
④⑯	たてしなやま 蓼科山・八ヶ岳	未指定	縄文ムラから臨む景観 はるか遠方からも見える蓼科山は、諏訪富士とも呼ばれ、原村阿久遺跡の環状列石が指し示す山であるといわれている。縄文時代には格好の目印となった。	長野県茅野市

④⑦	おおみやま 大深山 遺跡	国史跡	標高 1300m、日本最高位の縄文中期集落跡。標高 1100m を限界とする甲信縄文集落の中では特別な存在。出土遺物からも山の集落を想像できる。	長野県 川上村
④⑧	大深山遺跡出土品	村有形	人面香炉形土器は人面を思わせる造形美と山の恵みに感謝する神秘性を垣間見ることができる逸品。[川上村文化センター]	長野県 川上村
④⑨	川上村産水晶	未指定	石器の材料として利用された高山帯の水晶[川上村文化センター]	長野県 川上村
⑤⑩	イシナシ (山梨)	村天然	春には白い花を咲かせ球果が食用となり、山の恵みを大切にしてきたことを垣間見る。	長野県 川上村
51	おめぐら 男女倉 遺跡群	町指定	旧石器時代に遡る日本最古のブランドの誕生を物語る豊富な出土遺物と併せて、山深き黒曜石原産地の河川流域のムラ風景を見渡すことができる。黒曜石の水を汲む人でにぎわう。	長野県 長和町
52	黒 曜 石 原 産 地 鷹 山 遺 跡 群 よう たかやま	未指定	観光地としても賑わう霧ヶ峰から美ヶ原高原に広がる原産地遺跡群のロケーションは、雄大な高層湿原に狩人達が集う黒曜石のふるさとの姿を想起させ、その地に残された出土資料からは、人々が集うところとなったオブシディアンストーリーをイメージすることができる。	長野県 長和町
53	おいわけ 追分 遺跡	未指定	黒曜石のミチ 黒曜石ブランドの流通基地となった当遺跡の存在は、黒曜石のふるさとかから次なる地域へと、黒曜石3万年の足跡をドライブの過程で地形の変化を確かめながら辿る事が出来るスポットである。博物館に展示された出土資料と遺跡の 5m に及ぶ地層の展示は、その歴史を証明するものでもある。	長野県 長和町

54	ほしくそとうげ 星 麓 峠 黒曜石原産地遺跡	国史跡	世界最古級の 鉾山 として今に引き継がれた黒曜石ブランドのパワースポット。縄文人の活動痕跡が静かな森林の現地表面で直に見ることができる特異な鉾山遺跡は史跡公園として公開されており、訪れた人に時空を越えて当時の息づかいを伝えている。	長野県 長和町
55	おおにたん 大仁反 遺跡	未指定	黒曜石のムラ 全面保存となった遺跡とその近くにある資料館に展示されているこの遺跡の出土資料は、黒曜石鉾山を営み、その流通センターとなったムラとして、黒曜石ブランドめぐる人々の交流エネルギーを伝えている。	長野県 長和町
56	こうろがた 香炉形 土器 (なかみち 中道 遺跡)	未指定	縄文人の心 遺跡から出土した命の再生と持続を表現した特異な香炉型の縄文土器は、人々の命を支え続けた縄文社会の価値観と黒曜石流通への思いを今の私たちに語りかけている。	長野県 長和町
57	わだとうげ 和田峠 と歴史の道	国史跡	黒曜石の著名な原産地である和田峠は、旧石器・縄文時代から黒曜石資源を全国に送り出すオブシディアンロードの起点でも有り、古来より人の行き交う 黒曜石のミチ・歴史の道 として今に至っている。	長野県 長和町 下諏訪町
58	ほしがとう 星ヶ塔 黒曜石原産地遺跡	国史跡	縄文時代の 黒曜石鉾山 。縄文時代に各地へ黒曜石を供給した主力の鉾山。	長野県 下諏訪町
59	朱彩壺形土器 (つちだ 土田 遺跡)	下諏訪町文化財	北東北地方から持ち込まれた縄文土器。 黒曜石の流通 を背景として広域的に人々が交流していたことを物語る。	長野県 下諏訪町
60	いどじり 井戸尻 遺跡	国史跡	南アルプスを臨む中部高地の ムラの景観 。縄文農耕や、土器造形から豊かな精神世界を解明する舞台となった。	長野県 富士見町

61	とうない 藤内 遺跡出土品	国重要文化財 町有形文化財	縄文人の心に触れる 土器造形は、縄文の哲学ともいえる深い精神性の晶出したものであると同時に、高い芸術性が評価される。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
62	さかうえ 坂上 遺跡の土偶	国重文（考古）	縄文人の心に触れる 国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」と並び、八ヶ岳山麓を代表する像。中部日本に広がった同種の土偶の中で、その規範となる存在。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
63	そり 曾利 遺跡出土品	長野県宝	縄文芸術 八ヶ岳山麓から山梨県にかけて広がる曾利式土器。その標式となり、火焰(型)土器と並び、縄文土器を代表する水煙渦巻文土器が有名。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
64	とうない 藤内 遺跡・いだい 居平 遺跡	町史跡	中部高地縄文時代中期の前半期と後半期の典型的なムラ。	長野県 富士見町
65	人体絵画土器 (とうどのみや 唐渡宮 遺跡出土)	町有形文化財	縄文人の心に触れる 出産する女性が描かれた土器。縄文文化で唯一の具象的な絵画であり、日本最古の絵画資料でもある。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
66	あきゅう 阿久 遺跡	国史跡	縄文時代前期の大規模祭祀遺跡。中部高地の中期に栄えた縄文文化の原型となったムラ。ムラの広場中央に並べられた立石は蓼科山に向かっている。	長野県 原村
67	顔面付釣手土器 (まえおね 前尾根 遺跡)	未指定	縄文中期の大きなムラから出土した顔面付釣手土器は縄文人の心の拠り所としての祭祀を示す土器と思われる。[八ヶ岳高原美術館]	長野県 原村
68	うえのはら 上野原 遺跡出土品	未指定	縄文芸術 輝く雲母と丁寧に磨かれた艶、繊細な文様は甲府盆地から眺める朝もやそのもの。[山梨県立考古博物館・甲府市出土]	山梨県 甲府市
69	うしろ 後呂 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 2つの顔は「笑い」と「怒り」か・・・。人面に対向する渦巻きは各々女性の後頭部を表現していると考えられ、出産の「苦しさ」と子を抱く「喜び」を込めたのかもしれない。[甲府市藤村記念館]	山梨県 甲府市

構成文化財の写真一覧

① 深鉢形土器 ^{とのぼやし} (殿林遺跡出土)



④ ^{かいどうまろしー} 海道前C遺跡土坑出土品



② ^{いちのさわ} 一の沢遺跡出土品



⑤ ^{あんどうじ} 安道寺遺跡出土品



③ ^{さけのみば} 酒呑場遺跡出土品



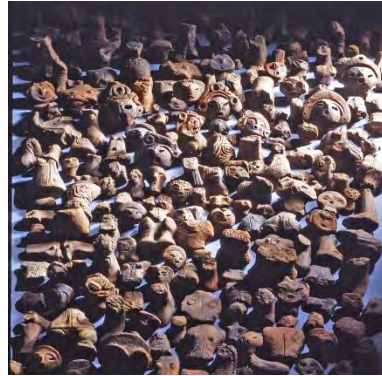
⑥ ^{はらまちのうぎょうこうこうまえ} 原町農業高校前遺跡出土品



⑦ ^{かぶつぼら} 甲ッ原遺跡出土品



⑩ ^{しやかどう} 釈迦堂遺跡出土品



⑧ ^{てんじん} 天神遺跡出土品



⑩ ^{しやかどう} 釈迦堂遺跡出土



⑨ ^{かつらの} 桂野遺跡出土の大型土器



⑪ ^{いもじや} 鋳物師屋遺跡出土品



⑪ ^{いもじや} 鋳物師屋遺跡出土品



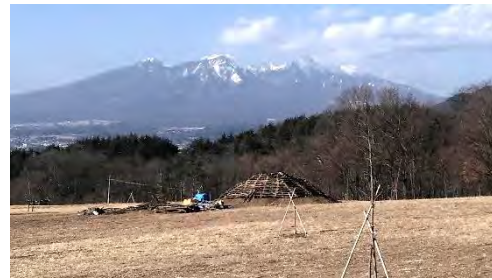
⑭ ^{めおとし} 女夫石遺跡出土品



⑫ ^{おさだぐち} 長田口遺跡出土品



⑮ ^{うめのき} 梅之木遺跡



⑬ ^{いしのつぼ} 石之坪遺跡出土品



⑯ ^{きんせい} 金生遺跡



⑰ 出産土器 (つがねごしよまえ 津金御所前遺跡)



⑳ きんせい 金生遺跡出土品



⑱ すわはら 諏訪原遺跡出土品



㉑ てらどこ 寺所第2遺跡出土品



⑲ いしはらだ 石原田遺跡出土品



㉒ ちくう 竹宇遺跡出土品



構成文化財の写真一覧

(23) ^{かいど}海戸遺跡出土品



(顔面把手付深鉢形土器)



(顔面把手)

(24) ^{えのきかきがいと}榎垣外遺跡出土品



(25) ^{めきり}目切遺跡出土品



(顔面把手付深鉢形土器)



(壺を持つ妊婦土偶)

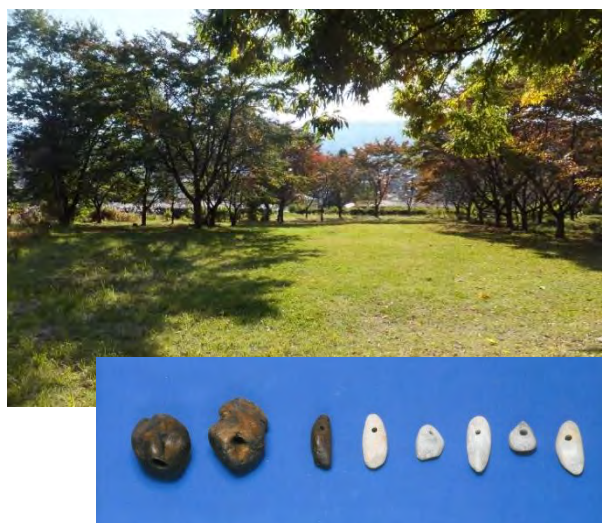
(26) ^{かじょうじ}土偶 (花上寺遺跡)



しみずだ こくようせきげんせき
(27) 清水田遺跡 黒曜石原石



なしくぼ
(28) 梨久保遺跡と出土品



ひろはた
(29) 広畑遺跡と出土土偶



そね
(30) 曽根遺跡



(31) ジャコッパラ遺跡群



やしまがはら くるまやま おどりば
(32) 八島ヶ原湿原・車山湿原・踊場湿原



(踊場湿原)



(高さ 6cm 小柄な土偶)
ちかとうしゃ じゅうにのき
(33) 千鹿頭社・十二ノ后遺跡



こうじんやま
(36) 荒神山遺跡出土品



(34) 諏訪地域考古資料(藤森栄一蒐集品)



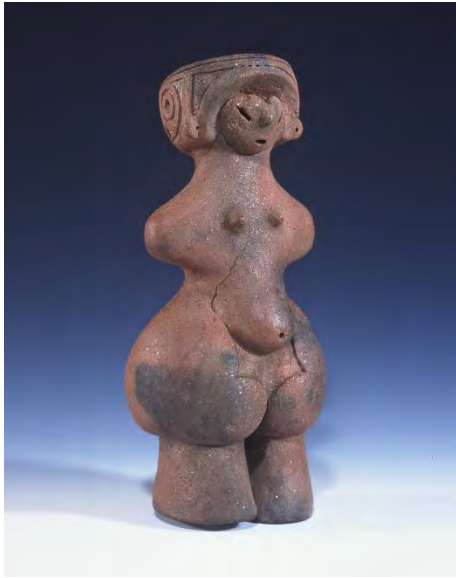
あなば
(35) 穴場遺跡 18 号住居址出土品



おお
(37) 特殊型土器(大ダッシュヨ遺跡)



(38) 土偶「縄文のビーナス」



なかっばら
(41) 中ッ原遺跡



うえのだん
(42) 上之段遺跡



(39) 土偶「仮面の女神」



とがりいし
(40) 尖石遺跡



(復元された竪穴住居
(上)蛇体把手深鉢形土器(右))



(43) 駒形遺跡



ございわ
(44) 御座岩岩陰遺跡



おおみやま
(47) 大深山遺跡



(45) 八ヶ岳の黒曜石原産地

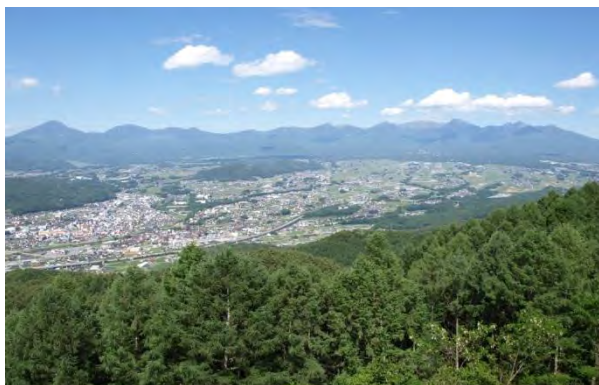


(冷山の巨大な黒曜石露頭)



(麦草峠の露頭)

たてしなやま
(46) 蓼科山 (左端)・八ヶ岳



おおみやま
(48) 大深山遺跡出土品



(49) 川上村産水晶



(50) イシナシ



おめぐら
(51) 男女倉遺跡群



(黒曜石の水)



(旧石器時代の石槍)

げんさんちたかやま
(52) 黒曜石原産地鷹山遺跡群



(左：旧石器時代の石槍 右：縄文時代の矢じり)

おいわけ
(53) 追分遺跡

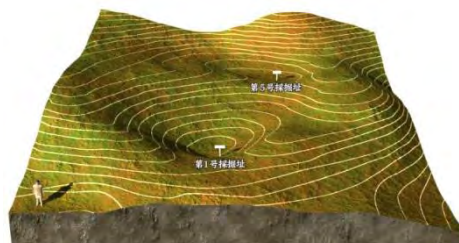


(町立黒曜石体験ミュージアムには遺跡から剥ぎ取った地層が展示されている。)

ほしくそとうげ
(54) 星鴫峠 黒曜石原産地遺跡



(クレーター状の窪み)



(窪みのコンピュータグラフィック)



(縄文人の黒曜石採掘復元模型)

おおにたん
(55) 大仁反遺跡出土品



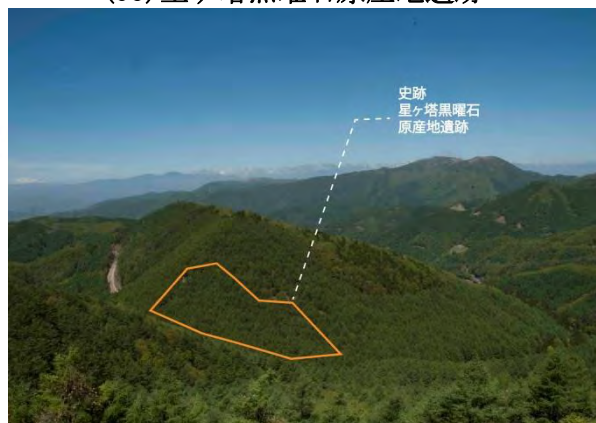
こうろがた
(56) 香炉形土器(中道遺跡)



わだとうげ
(57) 和田峠と歴史の道(史跡中山道)



ほしがとう
(58) 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡



(クレーター状の窪み)

しゅさい つちだ
(59) 朱彩壺形土器(土田遺跡)



いどじり
(60) 井戸尻遺跡



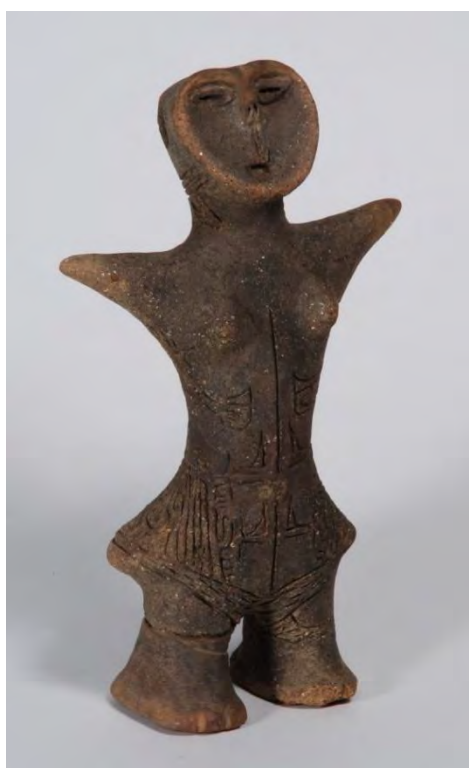
^{とうない}
(61) 藤内遺跡出土品



^{とうない} ^{いだいら}
(64) 藤内遺跡・居平遺跡



^{さかうえ}
(62) 坂上遺跡の土偶



^{とうどのみや}
(65) 人体絵画土器 (唐渡宮遺跡)



^{あきゅう}
(66) 阿久遺跡



(発掘時に復元した立石・列石)

^{そり}
(63) 曾利遺跡出土品



^{がんめんつきつりて} ^{まえおね}
(67) 顔面付釣手土器 (前尾根遺跡)



(様式3-2)

うえのはら
(68) 上野原遺跡出土品



うしろ
(69) 後呂遺跡出土品



(部分)

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

当地では、甲信地域の山麓高地には縄文文化が繁栄し、日本の他地域にはみられない黒曜石鉱山や、造形美あふれる土偶や土器を発達させた。今も数多くの縄文遺産や出土品が残るほか、縄文の時から変わらない自然や風景が数多く残されている。これらの地域資源を「中部高地の縄文遺産」として一体的な活用により、多くの観光客が訪れ「1000mの標高差を行き来し、自然とともに生きた縄文人が残した縄文文化の素晴らしさを体感できる地域」を目指す。

また、縄文時代には都道府県や市町村といった自治体の枠はなく、各地域がそれぞれの特性を生かし、その地域にないものは他地域との交流により補い合う社会を形成してきた。現代まで続く他地域との交流の精神を構築し、外部との人・モノの交流が地域の発展につながってきた。現在では、交流の範囲が国境を越えて世界へと広がっている。

黒曜石から生糸、精密機器等流通するモノは変わっても、縄文時代から息づく精神を活かして日本各地、世界各地から人を呼び込み交流する現代版「縄文のまち」ともいうべき、交流を基盤とした地域づくりを進め、「縄文の精神が生きる交流エリア」を目指す。

(2) 地域活性化のための取組の概要

① 「縄文文化体感エリア」としてのブランドを構築し、国内外に向けて縄文文化の魅力を発信する。

芸術的で神秘的な土偶や土器、美しく輝く黒曜石や水晶の原産地など、この地域には魅力的な縄文文化遺産が多数存在する。これら縄文文化遺産の魅力を総合的に活用し、さらに優れた地域資源や地域の取組の連携を図り、地域の魅力を向上させることにより、「縄文文化を体感できるエリア」としての地域ブランドを構築するとともに、一体的な情報発信などにより観光誘客を図る。

② 甲信縄文文化発信・活性化協議会による民間主導のまちづくりを推進する。

山梨・長野両県に接する八ヶ岳山麓の高原地帯は数千年前から悠久な文化を形成し守り続けてきた。その文化「縄文」をキーワードに市民、事業者、行政がそれぞれの役割を明確にしつつ、甲信縄文文化発信・活性化協議会によるまちづくり推進体制を構築し、地域の活性化を図る。さらに、エリア内の地域ごとに「縄文応援隊」を組織し、地域を支える人材の育成にも力点を置いたまちづくりを進める。

③ 国史跡の整備活用を図り、文化財の価値の理解と魅力の向上を図る。

山梨・長野の両県には日本遺産のストーリーの核となる国史跡が11か所にのぼる。それらの整備活用を図るとともに、その価値を幅広く活用するために学校教育や生涯教育とも積極的に連携を図り、また林間学校や移動教室に訪れる都市部からの教育旅行者等に質の高い教育素材を提供する。

④ 史跡と史跡、史跡と周辺地域とをつなげる「甲信縄文日本遺産発見のミチ」の整備とシーズンプランを策定する。

山梨・長野両県に接する八ヶ岳山麓の高原地帯は国史跡をはじめとした縄文遺跡が密集し、それらは雄大な自然と共に守られている。各地域の特色を示す構成文化財をサテライトとして、地域を探索・回遊するルートに食や伝統技術やさまざまな体験要素を絡めた周遊ルート「甲信縄文日本遺産発見のミチ」の整備等を進める。

また、高原に訪れる観光客は、春・秋の児童林間学校、ドライブや夏・冬のスポーツリゾートを楽しむ若者層、夏休みの家族旅行、秋の行楽シーズンに訪れるシニア層シーズンによって世代や目的に偏りがあるように見受けられる。四季を通じて各世代の多様なニーズに答えられるテーマとプランニングを提言していくことよって、全体としての集客促進につながる可能性を追求する。

⑤ 地域の伝統産業の振興と、それを活かした観光振興を行う。

山梨・長野両県に接する高原地帯には、雄大な自然と共に培われてきた伝統産業がある。日本遺産・環境資源を核とした滞在型・探求型周遊プランに、伝統産業や農産物・森林食材・奨励品などの食文化の体験を加え、周遊プランそのもののブランド力を高めて消費拡大を図る。衣・食・住を付加した体験導入は国内のみならず外国人来訪者にも受け入れられる展開を図る。

⑥ 市域を越えた人やモノの交流と通年観光を活性化させる。

山梨・長野両県に接する八ヶ岳山麓の高原地帯は広大なエリアを有する。そこには各地域の特色ある文化財だけでなく、伝統産業や特産物も数多くある。エリア内の各地では「縄文まつり」など各種イベントが開催されている。その他地域の「縄文応援隊」が参加交流をはかる。さらには「甲信縄文フェス」を企画し、エリア内を順次巡回してイベントを開催していくことで、人やモノ交流をはかり、新たな地域を創造させていく。

⑦ 訪日外国人が周遊しやすい環境を整備する。

八ヶ岳から霧ヶ峰、南アルプスの一帯は、首都圏からも手ごろな距離、交通アクセスも良く、雄大な自然を求めて訪れる観光客が多く、外国人も数多く訪れる。案内板・解説板・ボランティアガイド・スマートフォン等でも利用できるガイド・ガイドブックなどの多言語化を進め、地域の魅力を訪日外国人に発信する

(3) 自立的・継続的な取組				
・ふるさと納税に日本遺産への取組の項目を設け、その寄付金によって日本遺産に関する活動を継続して実施する。 ・養成したガイドの活動は有料とし、ガイド料で継続して新たなガイドの育成を行う。 ・地域内の企業との連携により、企業の冠を付した縄文イベントの開催等、企業との協力体制を構築する。				
(4) 実施体制				
・協議会を結成し、事務局として連絡会組織を作る。 甲信縄文文化発信・活性化協議会 協議会長は、長野県教育委員会教育次長。 事務局・ワーキンググループ 事務局・担当者会 2県、14市町村から1名及び民間団体等から複数名 20名前後で構成 ワーキング・グループ テーマごと適宜編成 ・構成団体 長野県教育委員会（文化財・生涯学習課、県立歴史館）、諏訪地域振興局企画振興課、上田地域振興局商工観光課、佐久地域振興局企画振興課、長野県観光部、長野県観光推進機構 山梨県観光文化部（文化振興・文化財課、山梨県立考古博物館）、山梨県立博物館、山梨県埋蔵文化財センター 長野県岡谷市教育委員会生涯学習課、岡谷市産業振興部商業観光課 長野県諏訪市教育委員会生涯学習課、諏訪市経済部観光課 長野県茅野市教育委員会文化財課、茅野市企画部地域戦略課縄文プロジェクト推進室 長野県川上村教育委員会教育振興課、川上村企画課 長野県長和町教育委員会教育課、長和町産業振興課 長野県下諏訪町教育委員会教育こども課、下諏訪町産業振興課 長野県富士見町教育委員会生涯学習課、富士見町産業課 長野県原村教育委員会教育課、原村商工観光課 一般社団法人長野県観光機構 山梨県甲府市教育委員会歴史文化財課 山梨県北杜市教育委員会学術課、北杜市産業観光部観光課 山梨県韮崎市教育委員会教育課、韮崎市産業観光課 山梨県南アルプス市教育委員会文化財課、南アルプス市観光商工課 山梨県笛吹市教育委員会文化財課 山梨県甲州市教育委員会文化財課 山梨県笛吹市・甲州市組合立釈迦堂遺跡博物館				
			定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	取組により、当地域住民が持つ精神性の原点とも言うべき「縄文」に触れる機会の拡大、理解の促進、地域住民の誇りの醸成が図られるとともに、全国、海外との交流が一層進み、目指す地域の実現と、交流から生まれる地域経済の活性化が見込まれる。			
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり		
補助金額：	平成30年度：	42,000千円	平成31年度：	20,000千円
			令和2年度：	9,000千円
(7) その他事業		別紙③のとおり		

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産申請市町村の観光客数		
目標値：	平成 28 年度	34,000,000 人	⇒ 令和 4 年度 40,000,000 人
設定根拠：	平成27年度、長野県・山梨県の日本遺産申請市町村の対前年度伸び率6%に対し、3 倍の18%に設定し、4000万人を目指す。		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	住んでいる地域の文化的環境の満足度		
目標値：	平成 28 年度	46.6%	⇒ 令和 4 年度 50%を超える
設定根拠：	モニター調査における「満足している」「どちらかといえば満足している」割合を合わせて設定。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産への協力者数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	「縄文応援隊」の個人の加入者数		
目標値：	平成 28 年度	0 人	⇒ 令和 4 年度 6,500 人
設定根拠：	日本遺産申請市町村人口の1 %加入を目標値として設定。		
設定目標Ⅳ：	その他		
計画評価指標：	その他	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	（具体的な指標を記載してください。）		
目標値：	平成 年度	⇒	平成 年度
設定根拠：			

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

（6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：「縄文トレイル」周遊ルート開発事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
補助金額：	平成30年度： 10,000千円	平成31年度： 10,000千円	令和2年度： 5,000千円
(積算)	開発調査委託一式	開発調査委託一式	開発調査委託一式
事業概要：	観光協会・旅行代理店と連携し「縄文トレイル」観光ルートの開発・商品化を行う。マーケティング調査、商品企画・モニターツアーの実施等により、旅行商品としての魅力を向上させる。特に縄文をイメージした本地域の衣食住を体験できるコース設定を目指す。 初年度：テーマ「黒曜石鉱山から縄文のムラへ 黒曜石の道をめぐる旅」 2年次：テーマ「森の芸術家 縄文人に会おう 人面付き土器や土偶をめぐる旅」 3年次：テーマ「保存に長けた縄文食をめぐる旅」		
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	「縄文トレイル」旅行商品開発数		
目標値：	平成 30 年度	0 件	⇒ 令和 5 年度 5 件
事業②：「甲信縄文フェスティバル」開催事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
補助金額：	平成30年度： 10,000千円	平成31年度： 0千円	令和2年度： 0千円
(積算)	5,000千円×2回		
事業概要：	地域住民等がこのエリアの縄文文化に触れ、理解を深めることができることを目的として、地域内の土器・土偶や縄文体験プログラムを一同に集めるフェスティバルを開催する。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	地域住民が「日本遺産を知っている」人の割合		
目標値：	平成 30 年度	20 %	⇒ 令和 5 年度 50 %
事業③：案内看板の設置			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 16,000千円	令和2年度： 16,000千円
(積算)		400千円×40か所	400千円×40か所
事業概要：	構成文化財の遺跡現地、構成文化財を出土した遺跡現地、構成文化財を展示する博物館など、統一したデザインによる案内看板を3年間で80カ所整備。看板にはQRコード付し、画像情報や音声ガイドなど多くの情報を盛り込む。また外国人観光客の利便性の向上を図るため多言語化する。平成30年度は看板のデザイン、設置場所の選定、用地等の交渉等準備にあて、設置は次年度から行う。		
評価指標区分：	施設への入込み数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	史跡、博物館への来館者数		
目標値：	平成 30 年度	100 %	⇒ 令和 5 年度 300 %
事業④：「縄文文化案内人」育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
補助金額：	平成30年度： 2,000千円	平成31年度： 2,000千円	令和2年度： 2,000千円
(積算)	50千円×5回×8地区開催	50千円×5回×8地区開催	50千円×5回×8地区開催
事業概要：	地域の縄文文化を案内することができるガイドの育成のための講座を実施。甲信地域を8地区に分け3年間で養成。初年度は各地域の構成文化財について、2年目は他地区の構成文化財について、最終年度は外国語対応を行う。各地区10名以上のガイド育成を目指す。講座修了者は「縄文文化案内人」としてのガイド活動を実施。		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	「縄文文化案内人」の活動者数		
目標値：	平成 30 年度	0 人	⇒ 令和 2 年度 80 人

事業⑤：		縄文文化を紹介する広報用動画の作成					
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	4,000千円	平成31年度：	3,500千円	令和2年度：	0千円
(積算)		番組企画・制作・放送一式		番組企画・制作・放送一式			
事業概要：		地域の縄文遺産をまとめて紹介する広報用動画（番組）を作成し、ホームページや首都圏アンテナショップ等で映像を流す。 平成30年度長野県の遺産、平成31年度山梨県の遺産を対象とする。					
評価指標区分：		日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：		広報用動画のホームページ閲覧数					
目標値：		平成 30 年度	1,000 回	⇒	令和 5 年度	10,000 回	
事業⑥：		縄文遺産ガイドブックの作成					
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	3,680千円	平成31年度：	0千円	令和2年度：	0千円
(積算)		400円×(7700+1500)部					
事業概要：		地域内の縄文文化遺産をまとめて紹介するガイドブックを作成する。印刷部数は67件の構成文化財1件につき100部＝6,700部＋長野・山梨両県に500部ずつ＝7,700部の日本語版、英語版は日本語版の20%弱である1,500部を作成。構成文化財の保有数に合わせ配布、活用する。					
評価指標区分：		補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：		平成30年度から平成35年度の間のパンフレット増刷総数					
目標値：		平成 30 年度	12,000 冊	⇒	令和 5 年度	50,000 冊	
事業⑦：		首都圏での「縄文文化」発信イベント					
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	1,500千円	平成31年度：	1,500千円	令和2年度：	
(積算)		500千円×3か所		500千円×3か所			
事業概要：		首都圏において縄文文化を紹介するイベントを開催。平成30年度、31年度に東京、名古屋、大阪の3会場で開催。全国に縄文文化を発信する。					
評価指標区分：		宿泊者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：		地域内の延宿泊者数					
目標値：		平成 30 年度	3,000 人	⇒	令和 5 年度	3,200 人	
事業⑧：		縄文遺産を学ぶ学習旅行					
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	800千円	平成31年度：	0千円	令和2年度：	0千円
(積算)		バス借上2台・参加者保険					
事業概要：		地域内の小中学生を対象に縄文遺産を学ぶ学習旅行を開催、バスによって各地域の主要な縄文遺産を巡ることで、中部高地の縄文遺産についての理解や愛着を深める。					
評価指標区分：		日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：		地域内の小中学生の日本遺産の認知度					
目標値：		平成 30 年度	50 %	⇒	令和 5 年度	85 %	

事業⑨：縄文人の知恵が今に生きる地域産業の紹介					
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度
補助金額：		平成30年度：700千円	平成31年度：0千円	令和2年度：	
(積算)		350円×2,000部			
事業概要：		縄文人の加工技術や生活様式等、「縄文」を切り口として現在の地域産業等を紹介する冊子を作成。縄文人の生活が現代にもつながっていることを感じてもらい、縄文文化への関心を高める。			
評価指標区分：		その他		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		県外に住む人で縄文文化に非常に興味がある人の割合			
目標値：		平成 30 年度 10 %		⇒ 令和 5 年度 33 %	
事業⑩：「縄文カフェ」によるおもてなし交流事業					
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 2 年度
補助金額：		平成30年度：100千円	平成31年度：100千円	令和2年度：100千円	
(積算)		提供メニュー開発研究費		提供メニュー開発研究費	
事業概要：		民間・観光連盟・行政等が連携して、一服お茶処「縄文カフェ」を運営によるおもてなしにより、縄文文化を通じた交流を図る。本事業により、縄文カフェで提供するための、縄文に絡む食材を活用したメニューについて開発研究を行う。			
評価指標区分：		日本遺産に関する商品開発数		(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		縄文カフェで提供するメニューの商品開発数			
目標値：		平成 30 年度 5 品		⇒ 令和 5 年度 20 品	

（７）その他事業

事業①：	市内遺跡発掘調査等事業			
機関・団体：	文化庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	文化庁補助事業による縄文遺跡の発掘調査			
事業②：	史跡等買上げ事業			
機関・団体：	文化庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	史跡指定範囲地内民有地の買上げ			
事業③：	地域の特色を生かした史跡等総合活用支援推進事業			
機関・団体：	文化庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	出土遺物の整理による土器等を公開活用、体験学習会の開催			
事業④：	歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業			
機関・団体：	文化庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	黒曜石原産地遺跡野外展示施設整備			
事業⑤：	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業			
機関・団体：	文化庁	：	縄文王国実行委員会	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	黒曜石ふるさと祭りの開催			
事業⑥：	地域発 元気づくり支援金			
機関・団体：	都道府県	：	長野県	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	地域の観光資源や美術館・博物館等との一体的な周遊に向けた仕組みづくりなど、自らの知恵と工夫により地域の元気を生み出す取組を行う団体を支援			
事業⑦：	地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト			
機関・団体：	民間団体	：	日本商工会議所	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	縄文の心で繋ぐ地域の文化・自然・産業の再創造プロジェクト。ブランドブック製作、縄文に関する調査等。			
事業⑧：	縄文関連商品開発支援事業			
機関・団体：	市町村	：	茅野市	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	縄文に関連した商品開発に対する支援事業			
事業⑨：	みんなのまちづくり支援金			
機関・団体：	市町村	：	茅野市	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	市民団体等の活動事業への支援			
事業⑩：	ハケ岳 J OMONライフフェスティバル			
機関・団体：	市町村	：	実行委員会	事業期間：平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	縄文文化や縄文時代の生き方をアート、アカデミック、パフォーミングアーツ等の支店で発信。			

事業⑪：	博物館連携事業			
機関・団体：	市町村	： 北杜市、原村、富士見町	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	地域の魅力ある文化遺産を紹介し、地域内への定住を促進する。			
事業⑫：	花と心の里山推進事業			
機関・団体：	市町村	： 富士見町	事業期間：	平成 20 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	観光情報誌の製作、ガイドツアー、グルメツアーによる縄文文化等の情報発信			
事業⑬：	高原の縄文王国収穫祭事業			
機関・団体：	市町村	： 富士見町	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	高原の縄文王国収穫祭の開催			
事業⑭：	伝承館夏まつり～縄文夜会～ 縄文をテーマとする体験型のイベント			
機関・団体：	市町村	： 南アルプス市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	地域に密着した夜祭企画、仕事帰りの親と子供が参加、過去5年程度の実績あり。			
事業⑮：	「母と子の命を育む」民間企業とMP0法人とのコラボによる子育て支援事業			
機関・団体：	市町村	： 南アルプス市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	命の象徴ともいえる土偶を囲むイベントの実施 南アルプス市で鋳物師屋遺跡出土の「子宝土偶ラヴィ」を使った過去50回の実績あり。			
事業⑯：	国際交流支援事業			
機関・団体：	民間団体	： 自治体国際化協会（クレア）	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	高校生による黒曜石親善大使を結成し、イギリスなどのフリント鉱山を有する地域と人的交流を図る。今まで日本とイギリス間で高校生の交流を行っている。			
事業⑰：	国際交流文化助成事業			
機関・団体：	民間団体	： 東芝国際交流財団	事業期間：	平成 30 年度 ～ 令和 5 年度
事業概要：	海外の黒曜石研究者を招致し、公開講演会、公開シンポジウムを行い「広く市民に世界の中の黒曜石」を理解してもらう。			